

会議記録

会議名	第5回杉並区多文化共生推進懇談会
日時	令和7年7月8日(火) 午後6時30分～午後7時55分
場所	杉並区役所 西棟6階 第5会議室
出席者	〔委員〕 嶋田委員、谷原委員、シヴァ委員 福智委員、松尾委員 〔事務局〕 文化・スポーツ担当部長(阿出川) 文化・交流課
傍聴者数	1名
配布資料	資料1 杉並区多文化共生基本方針(冊子) 資料2 杉並区多文化共生基本方針(概要版/やさしい日本語版) 資料3 多文化共生基本方針に掲げる取組 参考資料1 杉並区多文化共生推進懇談会運営要綱新旧対照表
会議次第	〔議事〕 1 開会 2 議題 (1) 杉並区多文化共生基本方針冊子の刊行等について (取組①) (2) 多文化共生基本方針に掲げる取組報告 ・山梨県バスツアー(取組③⑩) ・東京青年会議所杉並区委員会地区事業(取組①③) ・多文化共生パネルディスカッション(取組③⑨) ・やさしい日本語講座(取組②) (3) 今後の課題「行政情報の多言語化発信」(取組⑤⑥) (4) その他 3 事務連絡 4 閉会

会議の内容 および 主な発言等	要旨・発言内容
1 開会	<p>【要綱の改正について（参考資料1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧対照表を参照 <p>【阿出川部長挨拶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月より文化・スポーツ担当部長に着任 ・杉並区多文化共生基本方針（以下、基本方針）策定へのご尽力に関する御礼 ・要綱改正による昨年度懇談会と今年度懇談会の開催主旨の変更について ・次回から資料は事前送付 <p>【司会・進行の選出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要綱第4条2項に基づき、部長を司会・進行とする →一同了承
2 議題	<p>【1 杉並区多文化共生基本方針の刊行等について（資料1、資料2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本方針冊子の刊行について ・基本方針概要版／要点版 <p><u>概要版</u> 区公式ホームページに掲載済。</p> <p><u>要点版</u> 資料2にて配布しているやさしい日本語（松尾委員と東京女子大学の学生の協力のもと作成）を含め、英語、中国語、ネパール語、韓国語、ベトナム語の6パターンを目下作成中。完成次第区公式ホームページに掲載予定。 《松尾委員から補足》 松尾委員（教授）と東京女子大学の日本語教員養成課程の大学院生・学部生有志、区の職員で、1か月ほどの期間打合せを重ね作成した。まだわかりにくい点があるかもしれないが、できる限りを尽くした。こういう機会をいただいて、学生たちも自分たちの学びを実際の社会に生かすことができるという実感を得ることができたと思うので感謝している。 《事務局から補足》 次第に記載した取組番号については、基本方針のどの項目の取組にあたるかを表したもので、その取組を行うことでどのように効果的に杉並区が多文化共生が推進されていくのかをわかりやすく示した。</p> <p>【2 多文化共生基本方針に掲げる取組報告（資料3）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県バスツアー（取組③⑩） <p>本事業は、基本方針で掲げる「地域コミュニティへの参加促進」／「国内外の文化を相互理解する取組」の一環として、区の交流自治体である山梨県忍野村、小学生の移動教室で関係がある山梨県山中湖村と3者で連携し、外国人区民と日本人区民との相互交流事業を実施し、多文化共生意識の醸成を図るとともに、外国人区民の地域参画の促進及び地域の活性化に</p>

つなげていくことを目的に実施。

ステップ①相互交流事業

5月17日（土）に山中湖村でダリア等の球根の植付け体験、忍野村でのほうとう作りなどを行うバスツアーを実施し、外国人8人、日本人11人が参加した。

当日は荒天のため、当初予定していた球根の植付け体験は、急遽花の名付けに変更。山中湖村の担当者から花の生育状況を適宜報告してもらい、成長を見守ることとなった。

ステップ②地域参画事業

8月中旬以降に、バスツアーの参加者が名付けをした花を杉並区内の物産展や子ども食堂などにて販売・配布し、外国人の地域イベントへの参加促進、地域の活性化へとつなげていく。

《谷原委員から補足》

NPO 法人すぎなみ子どもサポートで、学習支援、食事の提供をはじめとする居場所づくりの活動をしている。外国ルーツの子どもも少なからずおり、子ども食堂を通じて子どもたち同士でお互いの違いや共通点を見つけ仲間になっていけると良いと思っている。花の生育状況を鑑み、9月の妙法寺での子ども食堂にツアーの参加者たちに来てもらい、一緒にけん玉や将棋などで遊んだり、食事をしたり、会場のお寺を見るなど日本の文化に触れたりしながら楽しんでもらいたいと思う。

→本取組は外国人の方々が地域に出ていくきっかけが欲しいという声から生まれた事業。いきなり地域に出ていくことは難しいため、ステップ①で日本人と交流し関係性を構築したうえで、ステップ②で地域に参画していくという2段階の取組になっているので、(今後ステップ②を実施していく際には)是非皆様にもお力添えをいただきたい。(事務局)

《委員からの意見・質問》

○ステップ①のツアーの参加者は公募だったのか。

→初めての取組だったこともあり、今回は杉並区交流協会（以下、交流協会）経由で日本語教室に通う日本語を勉強中の外国人の方と、TEAM NAMISUKE というボランティアシステムに登録している日本人（外国人含む）を中心に募集した。(事務局)

○この事業は今後継続されるのか、または単年度限定事業なのか。

→本事業は一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の「多文化共生のまちづくり促進事業助成金」を活用し実施している。まったく同じスキームは考えていないが、外国人の地域参画は今後の課題と捉えているため、来年度以降も同様の取組は実施していきたいと考えている。(事務局)

・東京青年会議所杉並区委員会地区事業（取組①③）

本事業は、多文化・障害・高齢・性別など、様々なセクターで支援団体による縦割りの支援が継続され、地域住民がお互いを理解しサポートし合う

機会が不足しているという課題解決のため、杉並区民が地域共生の意識を醸成し、支援団体の連携を構築し、支援の輪を広げることを目的に東京青年会議所杉並区委員会により企画されたもの。

基本方針で掲げる「人権と子どもの権利擁護」／「国内外の文化を相互理解する取組」の一環として、民間団体と連携して多文化共生の推進に向けた区民の意識啓発・醸成を行っていくことを目的に、今年度は区が共催として参加した（昨年度は後援）。

事業①特別授業

5月23日（金）区立大宮小学校にて高学年の児童を対象に、「多文化共生」、「合理的配慮」を題材にした授業とワークを実施。

講師に嶋田先生をお迎えし、動画やクイズを交えながら、「日本の現状」や「やさしい日本語」「多文化共生の重要性」について座学にて学んだ後、児童たちは外国人留学生ボランティアと一緒にボッチャ体験や、いろいろな国の人と話す交流体験を楽しんだ。

事業②文化体験企画

6月7日（土）同小学校にて区内の児童を対象に「学び×祭り Education Festa」を開催。杉並区はモルック／ボッチャの体験ブース出展及び、昼休みのアフリカやウクライナのパフォーマンスステージの運営補助として参加。当日は約460名の方が来場し、共生社会にまつわる体験に参加した。2つの事業は年内を目途に青年会議所からWEB上に事業の様子が発信される予定。

本事業はこれまで、東京青年会議所の実行委員会の事業として企画されていたが、実行委員会の中心を地域の一般参画者へ移し公共化していくことを目指しているため、地域インフラ整備の主体者を担う杉並区も、来年度以降は実行委員会への参加を検討していく。

《嶋田委員から補足》

5月23日、多文化共生の授業は5年生に実施。今回はシヴァ委員の奥様に動画に出演していただき、イーストウエスト日本語学校（中野区）の外国人留学生18名が交流体験に参加するなど、この懇談会がハブになり人を繋いでいると実感した。

6月7日は台湾遊びのコーナーに同留学生が数名参加した。

《委員からの意見・質問》

○（谷原委員が）コーディネートを担当している桃井第四小学校のキャリア教育で、嶋田先生を日本語教師としてお呼びしたが、子どもたちの興味がすごく高く、やさしい日本語や動画を見たりし、子どもたちに少しずつ変化が生まれていると感じた。スモールステップからでも子どもたちの教育の場に出ていくことが重要だと感じた。

○多文化共生を進めるにあたり地域の皆様の協力なしでは実のある物にならないので、今回と同様に事業支援などの取組を広げていきたい。（事務局）

・多文化共生パネルディスカッション（取組③⑨）

本事業は、基本方針で掲げる「国内外の文化を相互理解する取組」／「地域人材の活躍の場の提供」の一環として、東京女子大学の協力のもと6月27日（金）に区役所本庁で実施。

第1部 すぎなみウォッチ

外国人留学生や卒業生から見た杉並の魅力を4本の動画で紹介し、自ら発表を行った。

第2部 岸本区長と話そう！

松尾教授と学生が司会・進行を務め、多文化共生の推進にまつわる4つのテーマについて区長と留学生によるサイコロトークやディスカッションを行い、「多文化共生という言葉聞いて、あなたが思い浮かべる理想の杉並区はどんなまちですか」という到着点まで展開。区長からは「区は交流のBridge、架け橋になっていきたい」という言葉があった。より多くの方に見ていただくため、後日、当日の様子を杉並区公式YouTubeで公開予定。企画段階から参加していただいた松尾教授、東京女子大学の学生の皆様に御礼申し上げます。

《松尾委員から補足》

当日は嶋田委員、谷原委員にも参加いただいた。

第1部の映像は、留学生や日本人学生、地域の方が4チームに分かれ「善福寺×モルック」、「桃井／井草／荻窪×アニメーションミュージアム／防災」、「阿佐谷×地域食堂」、「永福町×駄菓笑屋敷」のテーマで動画を作成・発表した。

第2部は区長もラフな装いで参加され、各々好きな呼び名も決めフラットな雰囲気懇談をおこなった。

5月の初旬から1か月以上かけて学生と区職員で話し合いを重ね手作りしていった。素人っぽさもあったかもしれないが、それも杉並の「味」だと思う。またこのような取組ができれば良いと思う。

《委員からの意見・質問》

○この企画はどちらから派生したアイデアなのか。

→区が事業の企画をし、東京女子大学に協力依頼した。どちらが主体になるかというところから話し合い、企画内容や構成なども東京女子大学側が提案し実現する運びとなった。（松尾委員、事務局）

→余談だが、どのように事業が出来上がっていったか、メイキング映像などを撮っておいても面白かったかもしれない。学生主体で、大人があまり関わっていない感じも素敵だったと思う。

→杉並区らしく他とは違うアットホームな雰囲気ですごく良かった。毎週ミーティングに参加するなど職員の関わり方や、当日フロアも巻き込んで全員が当事者として参加できる進行もすごく良かった。また、ネットに映像を残すことは大きな効果があるので、それがどこに載っているのか周知方法を考えることも必要。そのようにして杉並区の皆

が一生懸命多文化共生推進に関わっていることが見えるようにするとより良いと思う。

→パネルディスカッションの様子は、現在動画を編集中で後日杉並区の公式 YouTube にも掲載するが、嶋田委員がアクラスのホームページにも掲載していただいている。(事務局)

・やさしい日本語講座 (取組②)

本事業は基本方針で掲げる「やさしい日本語」の普及・啓発の一環として、杉並区の職員を対象に6月30日(月)に第1回目の集合研修を実施した。職員30名が参加。

日本語講師の深田みのり氏に講師を依頼し、研修前半ではやさしい日本語の基礎知識や考え方についての講義を受け、一般的な日本語で書かれた案内文をやさしい日本語に書き換えるワークなどを行った。

研修後半では、外国人ボランティア12名に協力いただきグループワークを実施。区の業務を題材に、やさしい日本語で外国人に案内を実践するロールプレイを行った。

研修後アンケートでは、やさしい日本語の使用に対する前向きな感想が多くあったことから、本研修が実効性の高いものであると検証が得られた。今後は交流協会と連携し、区の職員だけではなく地域全体にやさしい日本語が広まっていくよう普及・促進に力を入れて行く。

【3 今後の課題「行政情報の多言語化発信」(取組⑤⑥)】

・庁内連絡会議

多文化共生の推進に取り組むために庁内連絡会議を立ち上げた。5月の末に第1回目を開催し、以下が課題としてあがった。

区の情報や書類はいろんな部署が多言語化して郵送しているのだが、昨年実施したアンケート調査などから

- 自国では郵便物が届くことがあまりない
- 郵便物の封を開ける習慣がない
- 日本語で書かれた封書は自分に関係がないと思って開けずに捨てることもある
- 自国の言語で書かれていても制度が難しく何をしたらよいか分からない

という現状があり、区側の情報発信の方法と受け取る側の意識にミスマッチが起きていることが課題となっている。

このことから、どのような表現をすれば情報が届くのかを考え、杉並区独自の統一ルールを作成することとなった。

例えば、「重要」という言葉を多言語化するのではなく、「申請が必要です」「支援が受けられます」のように、目的の部分が多言語化する必要があるのではないかという意見が出ている。

ヒアリング意見を参考に案を作成したので、委員の皆様にご意見を伺いたい。

- 氏名の下に「これが何の通知か」を多言語表記する
- 裏面に区の公式ホームページ（以下HP）に飛ぶQRコードを付けるとともに、HPで多言語表示する方法を封筒に記載する（通知の内容はHP上で多言語表示し確認してもらう）
- HPは画像ではなく文字データで入力する
- 翻訳を意識した文章を書く際に、主語を明確にすることがポイントとなるが、「区は」、「私たちは」どちらの表現が分かりやすいのか
- イラストや写真による説明の補足も大切だと考える

《委員からの意見・質問》

- 最近の人は、「重要」が多言語で表記されていれば、昔みたいに読まずに捨ててしまうことは無いと思う。スマートフォンで翻訳して確認する人が多いと思う。
- HPは多言語表示の方法が分からない人が多いと思う。余程内容を知りたい場合以外、そもそもHPまで見に行く人は少ないかもしれない。
- 最近では文字を読みたくない人が多いので、イラストや動画が有効だと思う。
- HPに飛ぶ方法は良いと思う。「重要」の印が表示されていることも効果的だと思うがそれだけでは分からないので、HPに飛んで文書の内容を確認できれば分かり易いと思う。
- HPの多言語表示方法を封筒に載せるのも良いアイデアだと思う。
- 1年に1回必ず来るものを1枚の紙にまとめられないか。何月くらいに何が来るか、何だけは知っておかないといけないか、一覧になったものがあれば有効だと思う。
- 一つずつの改善も大事だが、全体像が見えること、動画などで見られることが有効だと思う。
- 動画作成もAIを利用すれば簡単だと思う。
- 近年、「重要」という言葉の重要度が希薄になってきていると感じる。内容の表示も大切かもしれない。
- 封筒に「なみすけ」など、区が著作権を持っていて、他者が使えない印をわかりやすく表示することも良いのではないかな。
- 最近では職員もやさしい日本語や英語を交えて対応してくれることが多く外国人は助かっている。
→本日出た意見を踏まえ案を作り同会議に提案し、結果を報告する。（事務局）

【4 その他】

現在決まっている今後の事業予定について

- ・7月26日（土）多文化共生ワークショップーベトナム編ー
（阿佐谷地域区民センター）

→ベトナムの文化や歴史を学び、ベトナム料理を作るワークショップの開催

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月21日（日）萩窪秋まつり（萩窪地域区民センター） →山梨県バスツアーで名付けをしたダリアの販売 ・ 9月（実施日は8月上旬決定） 子ども食堂（妙法寺） →山梨県バスツアーで名付けをしたダリアの配布 ・ 11月8日（土）、9日（日）すぎなみフェスタ（桃井はらっぱ公園） →忍野村と共同で山中湖村の特産品販売 （まるごと台湾フェアも合同開催予定） ・ 秋頃（実施日未定） →震災救援所の震災訓練に外国人の方に参加していただき、起震車・消火器体験・煙体験などを実施
3 事務連絡	次回開催は10月頃を予定
4 閉会	